

# 舞踊経験者および舞踊未経験者における 舞踊作品鑑賞力の比較検討 —作品鑑賞後の感想文を手がかりに—

塚本順子（天理大学）、山口孝治（佛教大学）

## I はじめに

本研究は、舞踊映像作品を刺激とし、舞踊経験者と舞踊未経験者を対象に、非接触で眼球運動を測定できるアイトラッカーを用いて、舞踊作品の鑑賞時の視線行動を可視化し、数値化することを試みた一連の研究に連なるものである。ここでは、舞踊経験者と舞踊未経験者の舞踊作品の鑑賞後の感想から、作品鑑賞力に違いがあるのかを検証することを目的とする。

## II 研究方法

### 1. 対象者

本研究での対象者は、B 大学生および T 大学生で男女・40 名（舞踊経験者 20 名/T 大学 男子 2 名・女子 18 名・平均年齢 18.7 歳及び舞踊未経験者 B 大学 20 名/女子 20 名/平均年齢 19.95 歳）である。

### 2. 鑑賞映像

鑑賞映像として、『座・高円寺ダンスアワード II 2020 年』受賞作品の「剥がれる鱗」の一部を用いた。作品は抒情的な動きの流れを持つ、男性ダンサー（22 歳）によるソロ作品である。

### 3. VTR 視聴後のアンケート調査

アイトラッカー T60（17 インチディスプレイ一体型）で視線計測をおこなった後に作品を鑑賞し、「頭に浮かんだこと、感じたことを自由に述べてください。」と書き込んだ紙に、自由に記述することを求めた。その際、回答時間や文字数などの制限はおこなわなかった。

### 4. 分析方法

自由記述で回答を求めた感想について、樋口耕一氏が作成した KH Coder を使用しテキストマイニング分析をおこなった。

舞踊経験の有無による比較の為、抽出語数を検討した。また、それぞれについて単語を抽出した後、抽出語を用いて共起関係を視覚化した共起ネットワークを作図した。加えて、階層クラスター分析による比較を行った。次に、舞踊経験によって特徴が表れると予想したため、経験の有無を外部変数とした対応分析を用い、その差異や特徴から解釈を試みた。（ここでは対応分析のみを示す）

## III 結果及び考察

### 1. 舞踊経験者および舞踊未経験者の感想語数からみた、言語表現力の違い

舞踊経験者の抽出語数は 1267（うち使用した語数は 457）で、異なり語数は 297（うち使用した語数は 208）となり、集計単位として文と段落はともに 54 であった。

一方、舞踊未経験者の抽出語数は 512（うち使用した語数は 190）、異なり語数は 155（使用した語数は 101）となり、集計単位としては文と段落ともに 34 であった。このことから、舞踊経験者は舞踊未経験者に比べて、抽出出語数、異なり語数、文と段落の全てで多かった。

このことから考えると、舞踊経験者は舞踊未経験者に比べて、舞踊を鑑賞したことについて言語化するにあたり、より豊富な語彙や表現方法を有していることがわかった。これまでの先行研究において、舞踊経験の有無によって、鑑賞後の感想文での表現に違いがあると論じたものはないことから、新たな知見の可能性と考える。このことは、鑑賞した舞踊作品について具体的に言語として表現することについても、舞踊を経験することによって変化する可能性があるのではないかと考えられる。

### 2. 舞踊経験者および舞踊未経験者の鑑賞力の特徴

舞踊経験者、舞踊未経験者に共通して「布」、「動き」、「見る」についてのものが多かった。

舞踊経験者は舞踊未経験者に比べて、舞踊作品から自分自身が感じたものに加え、ダンサーが主体として表している表現性を受け止め想像し、空間や体の細部にまで目を配り、より舞踊構造の細部を見ながらイメージを膨らませていることが示唆された。

一方、舞踊未経験者は明確に見えているものについての記述が多く、舞踊未経験者は寂しさやきれいだと感じてはいるものの作品全体から感じ取って鑑賞していることがうかがえた。

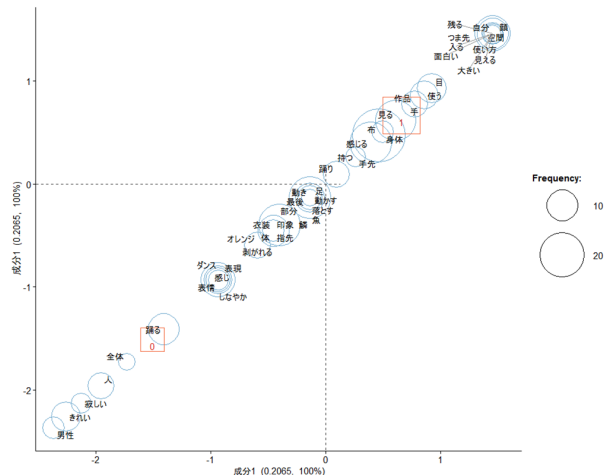


図 1. 舞踊経験（1）と未経験（0）での対応分析